



おかやま環境ネットワーク

NO.63
2011.7

NEWS

発行:(財)おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail:kankyounet@okayama.coop
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

生物多様性の日記念ファミリープログラム 開催報告



親子で、自然にふれあい、楽しみながら、自然環境のことを考えるきっかけをつくることを目的に、国際生物多様性の日記念ファミリープログラムとして、5月22日に開催し、小学生から80歳代の総勢55名が参加されました。

午前中の学習会では、県職員が岡山県の水産業や水産物、瀬戸内海的环境や水産研究所の取り組みなどを説明。午後からは研究所に隣接する西脇海岸へ移動して、海ゴミと海岸の漂着物調査や小型地引網を体験しました。

地引網でとれたスズキやメバルの幼魚、ヨウジウオやハゼの仲間、

さらには危険生物であるオニオコゼやゴンズイなどを観察し、最後は皆で海へと再放流して終了しました。

生物多様性の日を前に、普段目にする事の無い沿岸域の多様な生物に親しみを持つことができました。



ネットワークのつどい 開催報告

6月18日、オルガホールにて『ネットワークのつどい』を開催し、61名が参加されました。

交流強化を目的に、助成報告会、交流会、維持会員総会の3点を併せた交流事業として開催しました。

1. 助成活動報告会

助成団体を代表して『岡山野生生物調査会』と『御津の「みどり」と「清流」を守る会』より活動報告がありました。それ以外の助成団体は、報告書をもとに交流会での報告としました。

2. 維持会員総会

理事会(10年度事業・決算、11年度計画・予算)並びに監査報告を事務局より行いました。

3. 交流会

「自然環境」「社会環境」「啓発活動」の3テーマに別れ、日頃の活動の課題を共有し、これからの活動について語り合い、『つながる』(さまざまな人とともに活動する)、『広がる・拡げる』(活動の輪を拡げる)、『共有する』(知識、経験、ノウハウを多くの人と共有する)ことをねらいに情報交換をすすめました。

No.63の内容

- I. 生物多様性の日記念ファミリープログラム等開催報告………… P.1
- II. 寄稿『生物多様性の保全と持続可能な利用への取組』高橋瑛子 P.2
- III. 助成活動紹介『岡山野生生物調査会』…………… P.4
- IV. 団体会員紹介『落合野鳥の会』宮林英子…………… P.6
- V. 『テーマ別講座』『環境講座』ご案内…………… P.7
- VI. 各種ご案内、理事会報告等…………… P.8



高橋 瑛子

〔環境省中国四国地方環境事務所国立公園・保全整備課〕

～地域から考える～

生物多様性の保全と持続可能な利用への取組



生物多様性とは

岡山県には、瀬戸内海や吉備高原、中国山地などの多様な生態系の中に13,963種以上の動植物が生息・生育しています（岡山野生生物目録2009）。これらの生態系や生き物はお互いにつながりあい、支えあって生きています。このつながりは例えば山から川、海への水の流れや、食う食われる関係の食物連鎖などから見ることができます。さらに、中国地方のみに分布するスイゲンゼニタナゴ、瀬戸内海特有の多島景観など、生物や自然にはその土地特有の個性があります。「生物多様性」とは、このような自然や生物のつながりと個性のことです。私たち人間も、大きないのちのつながりの一員であり、このつながりによって生かされています。

高橋 瑛子 氏

2010年3月

東京農工大学農学部 環境資源科学科卒業

2010年4月

環境省入省自然環境局野生生物課に配属

2011年4月

環境省中国四国地方環境事務所国立公園・保全整備課に配属

生物多様性がもたらす恵み

私たちが日々当たり前と思っている事柄の多くは、生物多様性がもたらす恵みと深く関係しています。

スーパーに並んでいる瀬戸内海の海の幸。その豊富な魚介類は、プランクトン、海藻、山から供給される栄養分などの様々な生物・自然のつながりによって育まれています。私たちがおいしい瀬戸内海の魚を口にできるのも、豊かで健全な生物多様性があるからです。

その他にも、生物の遺伝的な情報や機能を用いた医薬品、豊かな森林による山地災害の軽減、自然と一体になった伝統文化など、生物多様性によって私たちの暮らしは支えられています。

先日、兵庫県でB級グルメグランプリが開催され、見事岡山のひるぜん焼きそばがゴールドグランプリを受賞しました。B級グルメには、その地域特有の食材や調理法が用いられています。このことから地域特有の自然環境が魅力あふれる地域づくりにつながっていることがわかります。

COP10 開催を受けて

2010年10月、生物多様性条約第10回締約国会議（CBD-COP10）が開催されました。COP10には締約国180カ国、国際機関、NGO等13,000人以上が参加し、主な成果として遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）に関する名古屋議定書と2011年以降の生物多様性保全の目標を定めた「新戦略計画・愛知目標」が誕生しました。

新戦略計画のビジョンは「自然と共生する」世界の実現であり、2050年までの中長期目標と、20の個別目標が合意されました。個別目標には「2020年までに陸域の17%、海域の10%の保護地域化する」など具体的な期限や数値目標が盛り込まれました。

愛知目標は世界レベルの枠組みとして位置づけられています。今後、この枠組みの中で各国が国別の目標を設定し、取組を進めていくことが求められます。

COP10による生物多様性への世界的な関心の高まりの中、地域の实情に合った取組を行っていくことが重要です。なぜなら、生物多様性のあり様は地域ごとに異なっており、画一的な施策だけでは取組は進められないからです。同じ海でも日本海や瀬戸内海の違い、事業者や農家などそこに暮らす人々の違い、鳥獣被害や外来種対策のような地域の抱える問題の違いなど、自然環境や課題は地域ごとに異なっています。

環境省中国四国地方環境事務所の取組

環境省中国四国地方環境事務所では、スーパーや動物園などで「外来生物を学ぶ展示会」を行っています。外来生物や、外来生物による影響をより多くの方に知ってもらうことを目的とし、ヌートリアやアライグマなどのはく製・パネルを使って解説しています。

外来生物とは、元々その地域にいなかった生物で、人間の活動によって他の地域から入ってきたものを指し、特に海外起源のものを言います。その中でも生態系や人の身体、農林水産業へ被害を及ぼすおそれがあるものを国が「特定外来生物」に指定し、輸入・飼育などを規制しています。

岡山県にも身近な所に外来生物がいます。今朝の通勤途中に旭川の斜面に黄色い花が一斉に咲いているのを見かけました。この花はオオキンケイギクといい、1880



動物園での展示・説明会

年代に観賞用、緑化用として導入されたものです。オオキンケイギクの繁茂によって、その地域に生育していた在来植物が減少するなどの問題が起きています。

動物園の展示会では、「ヌートリアは日本の生きものだと思っていた」という声がよく聞かれました。ヌートリアは戦前に毛皮用として輸入され、需要の低下によって野外に放逐された動物です。農作物への食害などの被害を及ぼすため、特定外来生物に指定されています。現在、岡山県での捕獲数は国内で最も多く、川で泳いでいる姿を見かけるほど個体数が増加しています。

外来生物問題の解決のためにはペットを野外へ捨てない、野外にいる外来生物を他地域に広げない、など1人1人の心がけが大切です。しかし、ヌートリアが外来生物であることを知っている来園者が多くなかったように、「(特定) 外来生物」という生物の存在自体を知っている方はあまり多くないようです。

地域から出来ること

外来生物の取組を通して、生物多様性の保全・持続的な利用のためには、地域の方々に「地域の生きもの」や「生きものと環境の関係」、さらに「自分たちが出来ること」を知ってもらう必要があると感じました。

生物多様性のために出来ることは何か、漠然としていてわからないかもしれません。しかし、今日の朝ご飯の鮭がどこから来たのか考えてみるだけでも、海・川・山のつながりが見えてきます。地元野菜を食べることで、田畑で野菜が育てられ、そこに住む生物が暮らしていただけます。電気をこまめに消すことは、地球温暖化で被害を受けている生物への影響を軽減させます。このように、日々の暮らしの中で出来ることはたくさんあります。生物多様性への関心が高まり、生物多様性のための行動が広がるよう、地域のみなさんと一緒に取り組んでいきます。

岡山野生生物調査会

「ワイルドライフ ウォッチング」

岡山の野生生物はどうなっているのか？

ーその生態を地元住民と調査し、人間との関係を見つめるー

1. 事業の目的

岡山の自然・野生生物に興味を持つ人と地元住民が、共にフィールドワーク（現地調査）を体験したり、いろいろな経験や知識を持つ専門家とが共同で調査したりすることで、身近な自然のすばらしさや地域の人々の豊かな経験や文化等を共感することを目的としました。

2. これまでの主な活動

- 1月 野鳥観察会
- 4月～写真展
- 6月～ウミボタル観察会
- 9月～オオシロカゲロウの発生調査
- 10月～生き物調査会等
- 2月19・26日宇甘西野鳥観察調査会、2月27日富地区（鏡野町）発表会
- 3月13日ESD・環境活動発表交流会

3. 事業紹介

①. 「ウミボタル観察会」

下津井Sホテル棧橋：6月上旬から発生を確認し、簡易な捕獲用具で採集確認しました。

児島湾、大多府島；児島湾では4か所中3か所で確認しました。各地点での観察から、砂の（流出と）搬入や浚渫によって

発生が影響を受けていることがわかりました。

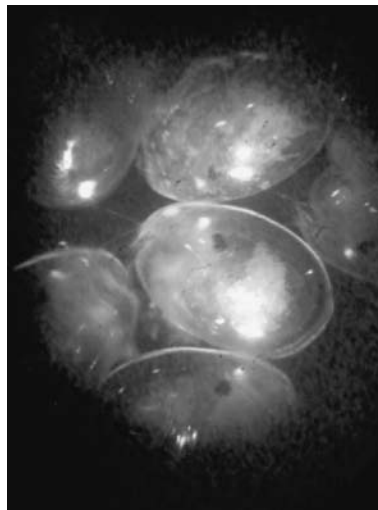
● 6月～ウミボタル観察会



簡易な容器・ロープを準備



活発に動くウミボタル



顕微鏡写真

②. 「オオシロカゲロウの発生調査」

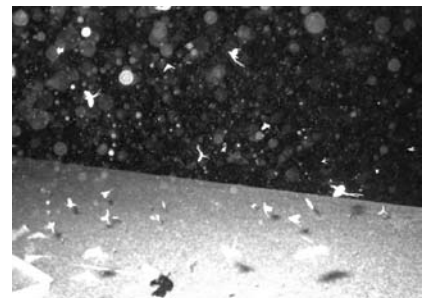
9月11日～10月6日、旭川下流域（岡山市新幹線高架下）で定点観測を実施しました。

約2週間に及ぶ大発生のピーク時期を確認しました。

● 9月～オオシロカゲロウの大量発生調査



9月16日の様子



9月21日の様子

③. 旭川流域の「生き物調査と報告」

11月13日、旭川の支流旦土川（真庭市）では、地元住民（旦土川流域の清流を守る会）の参加を得て、現地調査を実施し、その調査結果を報告しました。

● 10月10日 旦土調査・発表会



山道雑木林で



三角形の網とクモ



耕作放棄地で



マユタテアカネ
(シノメ班のある♀)

● 10月30日 宇甘川流域生き物調査



生き物調査の後で

● 2月27日 富地域発表会



地域の方と情報交換



写真展示

4. この活動によって達成された成果

「ウミボタル観察会」「オオシロカゲロウ発生調査」等の観察調査をはじめ、地域の自然や動植物の生態調査等について、独自の観察・調査活動を進めるとともに高校生や大学生、流域の活動団体などと連携を図り、昨

年は、「旭川源流大学」の立ち上げに参加しました。

そこで得られる生物やその生態についての情報は、例えば、瀬戸内海や児島湖のウミボタルは「見たことがなかったよ」と驚かれ、地域の情報を得たり、干潟の生物調査では大学生の卒業論文や研究に繋がっています。

また、調査活動を進める中で、地域住民から「自然やいろいろな生き物（の生態）についても知りたい」「普通に思っていたけど、調べてみると、改めて価値のあることが分かりました」などの声を聞くことが多くなりました。

そのことは「生きもの（の生態）について知り、これまで大切にしてきた」私たちの地域文化や営みを振り返ること、これからも大切にしていこうとする地域の人々の意志であると思います。

今後の活動によって、源流域から中流域、河口域・児島湾から瀬戸内海へと続く旭川の豊かな自然の営みや、いろいろな生き物の今の様子を調査・観察し情報を共有することは、市民による野生生物を調べるネットワークの実現につながるのだと考えます。



旭川源流大学修了記念

宮林 英子〔会長〕
落合野鳥の会



東京から落合に転入したばかりの昭和49年4月3日朝、隣家のおばあさんが「今日は大豆を播く日じゃ、枝豆で食べてもいいし」と種を下さった。そして「一粒は畑の神様に、一粒は土の中の虫たちに、そして一粒はどうぞ私のために云うて、3粒ずつ播くんよ」と教えてくれた。お百姓さんはこんなにも豊かな心で農作業をしておられたのかと、農家を知らない私は衝撃を受けた。生物多様性年などと言われるまでもなく、お百姓さんたちは自然の力を十分に知っていたのだ。ところが田んぼに機械が入り、農薬の使用が推奨？されるようになると、自然への畏敬の念は忘れ去られたように思う。

平成4年、当時の落合町広報誌に「誌上探鳥会」と題して2年近く、身近な野鳥について書かせていただいた事が、翌5年の落合野鳥の会誕生につながった。18年後の今日、会員は90名を超え、月1回の探鳥を楽しんでいる。土地柄、休日は農作業日であり探鳥会に参加できる人は少ないが、隔月に発行する会報「やませみ」で

情報を交換している。野鳥写真や探鳥記、星空散歩など、会員による連載記事は「やませみ」の自慢のコーナーであり、この5月に106号を発行した。

平成13年には、町を流れる備中川改修時に、県に要望して堤防にカワセミブロックを設置していただいた。県下2例目の設置で順調に子育てを繰り返していたが、3年前にすぐ上流の工事が始まり、周辺の木が伐採されるとブロックでの繁殖は見られなくなった。工事終了後に、会で環境を整えるつもりだ。



備中川のカワセミブロック
平成16年には右から2番目の穴で3番子まで育て上げた

また小学校や子供会から依頼を受けての探鳥案内では、望遠鏡の向こうに見える鮮やかな野鳥の姿に、驚きと興奮とで輝く子供たちの笑顔を見るのが楽しい。彼らが成長して真庭を出た時に、故郷がどれほど豊かで美しいところであったかを理解するだろう。

野鳥観察を通じて、地球環境がもたらす絶妙な循環システムを学



探鳥案内
真庭市立木山小学校3年生
2011.3.15 くらもち

んだ。植物を土台に、様々な生きものたちが織りなす自然は、私たちに水や食料を提供してくれる。ふんだんに使う水は野鳥の声であふれる広葉樹の森から湧き出しており、この水を工場で作ることなどできないし、その森を人間だけの力で守れはしない。私たちは緑濃い自然に護られて生かされていることを知った。

高齢化が進む真庭では草取りもままならず、薬剤に頼るうちに田圃に生きものが減り、自然の循環システムは各所でほころび始めている。昭和49年春に昼夜を分かつたず、降るような野鳥のさえずりを聞いた者として、先人の知恵に学び、自然の力を信じ、恐れ、感謝して暮らす仲間をひろげたい。

東日本大震災では想像を絶する自然の猛威を見せつけられた。罹災地域の広さ、悲惨さに言葉を失う。

かの地に再び草木が繁り鳥が歌う穏やかな日常が、1日も早く戻ることを願って止まない。

宮林 英子 氏

1947年生まれ
長崎県出身
草月流いけばな教室主宰
落合野鳥の会会長
日本鳥類保護連盟岡山県支部
監事

テーマ別講座②のご案内

『リサイクル・処分場見学エコツアー』
～リサイクルや廃棄物処理の現場から資源の
有効活用について学ぼう！～

循環型社会の形成に向けてくらしのあり方について考えるきっかけをつくることを目的に、「山上新最終処分場」「エフピコ福山リサイクル工場」の施設見学を実施します。

- ①. 日程：8月19日(金) ※時間は予定です
 - ・ 8:15 コープ東川原受付
 - ・ 8:45 オルガ受付
 - ・ 9:30 山上新最終処分場見学
 - ・ 11:00 昼食会場へ移動
 - ・ 12:30 昼食(各自持参)
 - ・ 13:00 エフピコ福山工場見学
 - ・ 16:15 オルガ到着予定
 - ・ 16:50 コープ東川原到着予定
- ②. 募集人数：40名(小学2年生以上の方、小中学生は保護者同伴、大人のみ参加は可) 応募者多数の場合は抽選。参加可否は、郵送にて連絡します。
- ③. 参加費：1人500円(年齢関係無)
※昼食は各自持参
- ④. 申込：7月29日(金)までにおかやま環境ネットへ

※テーマ別講座②・③の当選者には、別途詳細案内を郵送します。

テーマ別講座③のご案内

『海辺教室 in 高島干潟』
～干潟の役割とその大切さを実感しよう！～

干潟に棲む生物たちと触れ合うことで、自然環境について考え、姿を消しつつある干潟の役割とその大切さを実感します。

- ①. 日程：8月23日(火)
 - ・ 9:30 四幡港集合
(当選者には別途地図を郵送します)
 - ・ 10:00 海辺教室
 - ・ 12:30 四幡港解散
- ②. 場所：児島湾高島干潟(新岡山港すぐ南の小島)
- ③. 集合場所：四幡港集合
- ④. 内容：干潟の生きもの観察
- ⑤. 募集人数：40名(小学3年生以上の方、小中学生は保護者同伴、大人のみ参加は可) 応募者多数の場合は抽選。参加可否は、郵送にて連絡します。
- ⑥. 参加費：1人500円(年齢関係無)
- ⑦. 申込：7月29日(金)までにおかやま環境ネットへ



2011年度環境講座のご案内

～ だれでも気軽に参加できる 環境の基礎講座です ～

- ①. 会場：オルガ(岡山市北区奉還町1-7-7)
 - ②. 時間：10～12時
 - ③. 募集人数：40名(先着順で受付)
 - ④. 受講料：無料
 - ⑤. 申込：参加希望日を必ず事前にお申込みください。定数を超過し参加いただけない場合のみ郵送にて連絡します。
- 第1回：9月3日(土)『環境とは何か』
就実学園理事長・千葉喬三氏
 - 第2回：10月15日(土)
『人減にとって大気とは何か？大気環境の変化』
岡山理科大学理学部教授・野上祐作氏
 - 第3回：11月5日(土)
『水の流動、循環の実態に基づく水資源利用と水環境保全』
京都大学名誉教授・奥田節夫氏
 - 第4回：12月3日(土)
『地球環境を守る土壌のはたらき』
岡山理科大学准教授・山口一裕氏
 - 第5回：1月14日(土)
『持続的社会の条件を創りましょう』
元岡山大学准教授・白井浩子氏
 - 第6回：2月18日(土)
『人類発展の仕組みの反省・新しい仕組の構築』
中国四国地方環境事務所・三田裕信氏他
 - 第7回：3月3日(土)
『自然と人間の共生を図ること、持続可能な社会構築のために』
岡山大学社会連携本部本部長(おかやま環境ネットワーク理事長)・青山勲氏
- ※講義模様を収録したDVDと講師資料を希望者に500円(送料込み)でお分けします。希望者は事務局にご連絡ください。各回終了後、準備ができ次第発送します。

みなさん是非ご参加ください♪

2011年度第2回ホテル 団体交流会のご案内

おかやま環境ネットワークでは、県内各地の団体あるいは個人でホテルの保護、復活、再生をめざす人々にお集まりいただき、年3回ホテル団体交流会(5・7・9月頃)を、また年1回ホテルフォーラム(今年の予定は11月19日)を開催し、取り組みの交流をすすめています。

どなたでも参加できます(無料)。ホテルに関する交流をすすめる、ネットワークをひろげましょう。

- ①. 日時：7月9日(土)
10～12時
- ②. 場所：オルガ4階会議室
- ③. 内容：各地・各団体の取り組みの交流、ホテルフォーラム企画検討
- ④. 申込：資料・会場の準備のため必ず事前にお申込ください。
お名前・住所・電話を環境ネットへご連絡ください。

第3回 水環境フォーラムのご案内

テーマ：「水質改善がすすむ児島湖の現状と課題」

- ①. 日時：7月2日(土)
13時半～17時
- ②. 場所：オルガ5階スカーレット
- ③. 主催：(社)日本水環境学会
中国・四国支部岡山地域分科会
共催：岡山理科大学環境教育地域支援研究会、(財)おかやま環境ネットワーク
- ④. 募集人数：20名(先着順、必ず事前にお申込ください)
- ⑤. 参加費：無料

環境家計簿レポート 発行のお知らせ

おかやま環境ネットワーク環境家計簿委員会と岡山市とで協働ですすめています「環境家計簿」の2010年実績をまとめた『環境家計簿レポート』ができあがりまして、会員の皆様に1部同封しています。ご覧ください。

● CO₂ 排出量は前年と比べ 5.8%削減!

集計の結果、2010年は前年に比べてCO₂排出量を5.8%減らすことができました。また、全てのエネルギーで1世帯当たりCO₂排出量を前年から削減することができました。これは、環境家計簿をつけることにより「環境」を重視し、生活を見つめ直した成果です。あなたも環境家計簿をつけ、環境に配慮したくらし方で家庭からのCO₂排出を削減していきましょう(新規モニター募集は11月予定)。

また、環境家計簿をつけている世帯の電気使用量の前年比と、一般家庭用電灯需要(中国電力まとめ)の前年同月を比較したところ、夏の猛暑と冬の冷え込みなどにより中国電力の電灯実績は6.5%増となっていますが、環境家計簿モニターは3.2%増に留まっています。これも、環境家計簿をつけることによって、省エネを意識して生活しているもので、電気使用量の増加が抑えられているものと思われます。

※「環境家計簿モニター」の皆様へお願い

2011年上期実績報告(1～6月分)を7月中旬に報告お願いします。

6月度理事会報告

6月理事会にて、以下の事項が承認されました。

- 1. 第2回テーマ別講座開催要項
- 2. 第3回テーマ別講座開催要項
- 3. 震災からの学習・交流会(仮)開催要項
- 4. 第1回水環境フォーラム in 岡山共催

○お詫び

5月に会員の皆様に送付いたしました「第10回維持会員総会資料」のP.11「財産目録」の表の項目を間違えております。お詫びし、以下に修正していただきますよう、よろしくお願いいたします。

(誤)

当年度	前年度	増減
(正) 3列合わせ「金額」です		
金額		

.....
 ・ 2011年度会費をまだ納付いた
 ・ だいていない会員に振込用紙
 ・ を同封しております。お振り
 ・ 込みくださいますよう、お願
 ・ しいいたします(入れ違いでお
 ・ 振り込みいただいておりまし
 ・ たらご容赦ください)。



■お問い合わせは
 (財)おかやま環境ネットワーク
 〒700-0026
 岡山市北区奉還町1-7-7
 TEL/FAX 086-256-2565
 E-mail: kankyounet@okayama.coop
 HP: http://www.okayama.coop/kankyounet/

かけがえのない地球、未来のこどもたちへ!